



—— 第35回 香川経営研究集会 パネルディスカッション ——

「中讃広域エリアの10年ビジョンとは？」 ～産公学がともに歩む地域の未来像～

【パネラー】

丸亀市／市長 **松永 恭二氏** 善通寺市／市長 **辻村 修氏** 多度津町／町長 **丸尾 幸雄氏** 琴平町／町長 **片岡 英樹氏** まんのう町／町長 **栗田 隆義氏**

【コーディネーター】

(株)ウエストフードプランニング／代表取締役 **小西 啓介氏** うつみ化粧品店／代表 **内海 珠美氏**
(香川同友会／代表理事・中讃第2支部) (中讃第2支部 副幹事長)

中讃広域エリア各市町の10年ビジョンとは？そこに描かれた未来像は？6市町の首長を迎えての討論です。

各市町の基本方針について

小西 本日はお忙しい中のご参加ありがとうございます。早速ですが、まず最初に皆さんの市の基本方針についてお聞きかせください。

栗田町長(まんのう町) 基本理念を、「豊かな自然を活かしみんなで創る町 まんのう地域」のつながりを大切にするまちづくり」と定め、町の将来像として、「元気まんまん まんのう町」水と緑がひとを育み支えあう町」を掲げています。

新しい人材や地域産業が育ち、社会や経済を力強く支え、人口減少の抑制、住民一人ひとりの活力の向上、地域の自治力の向上を方針としています。

片岡町長(琴平町) 琴平町は人口8000人、面積8平方キロメートルの県内では人口、面積

共に2番目に小さな町です。しかも人口の減少率は前回の国勢調査によると県の平均減少率2%に対してわが町は8%減という厳しさで、大きな課題になっています。一方、人口密度は逆に県内3番目の高さです。特徴は観光地で、今年は観光客が年間200万人ほどに回復すると見込んでいます。また、平成の大合併で合併しなかった町でもあります。

このような特徴のあるとてもユニークな自治体なので、町の強みを活かしたまちづくりが肝要と考えています。小さい町だからこそできる行政として、一つは住民の身近な行政を目指しています。もう一つは、町の住民の皆さんにもっと琴平町を好きになってもらい、関わりを強くもっていただく関係人口を増やしたいと考えています。

これらを踏まえた自治体運営の観点から、経済と福祉、教育を含めた地域の経営に転換し、マーケティングの手法を少しず



つ取り入れたまちづくりをしていくことを方針として掲げています。

丸尾町長(多度津町) 三つの基本方針を掲げています。

一つ目は多度津の歴史、伝統、文化を活かした魅力のあるまちづくりと人づくりを行っていくことで、移住、定住、交流人口を増やしていくとする人口減少対策の地方創生事業です。

二つ目は少子高齢化対策です。主な少子化対策は子育て支援をさらに充実していくことです。高齢化対策は医療、介護、福祉、町民のボランティアの皆さんが連携・協力して行う地域包括ケアシステムを充実させていきます。

三つ目は直近の課題の災害に強い、安心・安全のまちづくりとして、いつ起こるかかわからない南海トラフ大地震への備えです。以上の三つが自治体の方針です。

辻村市長(普通寺市) 私どもの基本方針は、「どこよりも住ん

でみたい、住み続けたい町」です。普通寺は非常にコンパクトな町にも関わらず、大きな病院やスーパーがありますが、とても狭い地域を住みやすくするにはどうすればいいかが課題の一つです。

高齢化が進み、ひとり暮らしのお年寄りが増えているのを踏まえ、この1月から「朝食を普通寺で」という、オンデマンド寄り合いサービスを始めました。市内に住んでいるお年寄りが、この制度に加盟しているお店なら1食200円で食事ができる仕組みですが、これは全国初の試みです。

また、子育て支援として「子どもライブラリー」を設置し、読書・食育・運動の面から子どもの成長をサポートしています。教育面では、STEAM(STEAM)教育で、デジタル社会に通用し、起業家精神を持った子どもたちの育成を目指しています。

このような様々な取り組み

を通じて、住んでみたい普通寺を目指しています。

松永市長(丸亀市) 丸亀市の基本方針は「人づくりと共創」です。「人は石垣」とよく言いますが、「教育がうまくいけばいいまちづくりができたも同然」という考えからプロジェクトをつくり、人づくりに取り組んでいます。「共創」は、一緒に創ろうですが、市民の皆さま方や企業や各団体と一緒に進めてまちづくりを考えています。

職員全員が政策集団であり、まち全体が学校ということですが、これはまち全体が文化、芸術だということです。その意

味からも子育て支援が大切になってきます。

そこで丸亀市は給食費の完全無償化を昨年4月から行っておりますし、また18歳までの医療費の無償化も始めました。

最も連携したい分野は

産業振興と観光への取り組み

小西 ありがとうございます。同じ地方の自治体であっても、細かいところではそれぞれに課題があるようです。

本日は本会に参加の同友会の会員企業の皆さんに事前に「行政と連携したい分野に対するアンケート」の回答をお願いします。



松永市長(丸亀市)



した。その結果「最も連携した分野は産業振興と観光への取り組み」でした。回答に対するお考えをお聞きしたいと思います。

松永市長（丸亀市） 市民の方々とよくお話しをするのですが、そこで一番多く出てくるのが「雇用のあるまちづくり」です。

ただし、「産業振興」や「少子化対策」「観光」等々、これらに一生懸命取り組んで初めて雇用のある町ができると思っているので、結局、仕事がたくさんあって、雇用がしっかりできる町だと思います。

丸亀市は約70%の人が、19歳になると県外に出て行き、殆ど

の人が帰って来ません。とくに若い女性が顕著で、なかでも東京に行った人は帰ってこないという現実があります。どちらにしても、今日のアンケートの回答と全てが関連するので、仕事があり、仕事を選べる町を、私は常に頭の中に入れていきます。

丸尾町長（多度津町） 産業振興

とまちづくりをどのようにしてコラボしていくか。また、観光振興条例については、私どもが作らなければいけないのですが、デメリットを少なくしてメリットを多くするためには、どんな方法があるのかをいま検討中です。まだ答えは出ていませんが、前向きに検討していると



丸尾町長（多度津町）



栗田町長（まんのう町）

ころです。

新しいことを受け入れ、取り込むことは行政にとつては一つの冒険ですが、進歩に繋がるものなので皆さん方のご意見を聞かせていただき、それを取り込んでいきたいと考えています。

中小企業と行政の

連携のあるべき姿は

小西 では続いて、我々中小企業家と行政の取り組みについてのご意見をお聞きます。

栗田町長（まんのう町） 同友会さんも参加している「大学・地域共創プラットフォーム香川」では、産公学の三者が連携し、

地域で若者に充実してもらおうための施策を推進しています。が、産業界と自治体との連携はまだまだの感があるように思います。

そんな中で、地域と共に学び育つ企業づくりの一貫として、同友会では共育型インターンシップの取り組みをされていますが、これは生徒が企業に直接出向き、業務を体験するとともに、経営者や従業員から企業



小西啓介氏



辻村市長（普通寺市） 私のほうはDX（デジタルトランスフォーメーション）、CX（コーポレートトランスフォーメーション）の

思っています。
将来的には、若者が地元の定着に繋がる素晴らしい取り組みです。まんのう町には高校はありませんが、琴平の高校に大勢の子どもたちが通っていますので、今後も注目していきたいと思っています。

理念や働くことの意義や大切さを学び、自分の将来について具体的に考えるとても素晴らしい機会になっています。また、企業側も自社の存在意義の再認識の機会になっていると聞いています。



辻村市長（普通寺市）



取り組みを進めています。
人口減少と人手不足の課題を抱えていますが、普通寺市だけでなく地方のほとんどの企業、99%は中小企業であり、中西讃地域、普通寺市の経済は中小企業によって成り立っているわけですから、中小企業には人手不足解消のためにデジタル化に取り組み、また、現在の業種と異なる未来のある産業を本業と併せて展開し、生き残っていただくことに行政としてお手伝いできるのではないかと考えます。

片岡町長（琴平町） 地域の経済を支えているのは事業者の皆さんであり、地域住民の生活に



片岡町長（琴平町）

とって皆さん方は欠かせない存在であることを、もっと意識していただきたいと思います。そして、現場の声やアイデア、提言などを地元の役所や役場に届けていただきたいと思っています。
また、それらの協議や意見交換のための場を設けることも大切ですし、デジタル化や脱炭素、働き方改革などを官民、公民が連携して取り組んでいかなければ地方は成り立っていかないと私は思っています。

小西 皆さんのお話から中小企業の重要性をしっかりと認識していただいていることがよくわかりました。また、ご意見の中には私ども中小企業と行政

の歩み寄り、協力するためのヒントがたくさんありました。
今日の議論を参考にさせていただき、今後歩みを止めることなく、皆さま方との連携を進めていきたいと思っています。貴重なご意見をありがとうございました。
※誌面の都合により一部割愛させていただきます。



内海珠美氏



第3部 年詞会

PHOTO DIARY

年詞会の模様をスナップショット！



高松信用金庫／理事長 乾杯の挨拶
大橋 和夫氏



四国財務局／局長 挨拶
児玉 光載氏

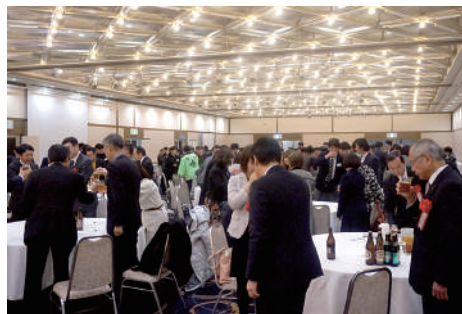


丸亀市／市長 挨拶
松永 恭二氏

【ご臨席いただいた来賓の皆様】(順不同)

四国財務局／局長 児玉 光載氏
香川県／商工労働部 次長 武本 哲史氏
高松市／創造都市推進局 局次長 塩田 広宜氏
丸亀市／市長 松永 恭二氏
善通寺市／市長 辻村 修氏
土庄町／町長 岡野 能之氏
琴平町／町長 片岡 英樹氏
多度津町／町長 丸尾 幸雄氏
まんのう町／町長 栗田 隆義氏

株式会社百十四銀行／取締役常務執行役員 金本 英明氏
株式会社香川銀行／執行役員 丸亀支店長兼丸亀西支店長 多田 晃氏
兼丸亀支店土器町出張所長
高松信用金庫／理事長 大橋 和夫氏
高松信用金庫／理事 青井 敏文氏
香川県信用組合／理事長 右川 俊二氏
独立行政法人中小企業基盤整備機構 四国本部／本部長 樋口 光生氏
香川県教育委員会／教育長 淀谷圭三郎氏
香川県立飯山高等学校／校長 大平 徹氏



歓談のひとつとき



林代表理事挨拶



実行委員長・副実行委員長





実行委員長のまとめ

第35回 香川経営研究集会実行委員長

(株)藤井システムエンジニアリング／代表取締役社長 **藤井 晴樹氏**
(中讃第2支部)

はじめに

当日は、志を同じくする337名の皆様に参加いただきました、ありがとうございました。今回の経営研究集会は、労使見解の第一として、経営者自身の“経営姿勢の確立”への足掛かりとし、「今こそ、変革の時!」をスローガンとし、自己変革のキッカケとしました。

その為に第1部は、日々専門の経営課題を深掘りしている各委員会が分科会を設営する事で、あらゆる経営課題の解決への糸口になれば、会内外問わず香川県の中小企業が元気なるはずだと、無理を承知でお願いしました。

また第2部は、開催地である丸亀市長が常々おっしゃっている“2市3町連携”という地域の方針が、我々中小企業に何を求めるのか、どう連携できるのかを、パネルディスカッションという形式で設営しました。この構成を、サブスローガンとして～地域と共に成長する経営者になろう～と表現し、産公学金連携の始まりの場としました。

実行委員会での学び

毎月の実行委員会では、毎回沢山の学びがあり、自身と自社の課題に向き合える場でした。私は入会して4年間、誰よりも必死で県内外関わらず学び実践し、入会前よりは結構いい会社になっているのではないかと思います。しかし、実行委員会を進める中で発生した問題が、タイムリーにも自

社でも発生した事もあり、対処や改善に即役立ちました。これは本番が終わった今でも、自社で起きる事に「あ～こういう事か」と点が線になっています。

また、各分科会のプレ報告にお邪魔した際、委員会が一つになって完成度高く作り込まれており、ワクワクする内容になっていると感じました。それでも、もっと深掘りして突き詰めていくとのことで、日々徹底的に経営課題に向き合う経営者の姿勢を目の当たりにしました。

動員に関しても、委員会設営メンバーで「どうすれば達成できるか」と熱く語り合う姿に、「まさにこの瞬間に“変革”しているな」と嬉しく感じました。

パネルディスカッション

第2部の中讃2市3町の各首長によるパネルディスカッションでは、自社が根ざす地域の方向性を知ること、同じビジョンを描き連携し、自社という小さな一社ではなし得ない大きな発展が望めるきっかけとなったと感じています。また、聴くすべての方の為に徹底的に創り込む、小西代表理事をはじめ設営メンバーが毎晩遅くまで作り込む姿に、経営者としての意地とプライドにじびれました。

おわりに

今回の経営研究集会で、自身と自社の課題を深掘りし、実践しようとする変革者が同じ志の基にその展望を共有連携し、明日から共に歩める環境ができたのではないのでしょうか。

これも設営・参加された皆さん、一人ひとりのご協力があったからこそ実現できたと、感動しております。「実行委員長、ホンマにやってよかった!」と、お役を頂いた事、本当にありがとうございました。